かんきつにおけるカイガラムシ類の防除適期

近年、イセリヤカイガラムシやロウムシ類などのカイガラムシ類の発生が目立っている。
カイガラムシ類は種によって防除のタイミングが異なるため、それぞれの種の防除適期について紹介する。

適期防除の必要性について

イセリヤカイガラムシ成虫

イセリヤカイガラムシ産卵状況
卵のうの中に多数の卵を産卵する。卵が繊維状ワックスの中にあるため、薬液が到達にくい。

ヤノネカイガラムシ成虫
左：虫体　右：介殻腹面
普段見えているのはいわゆる介殻であり、虫体はその下に隠れている。

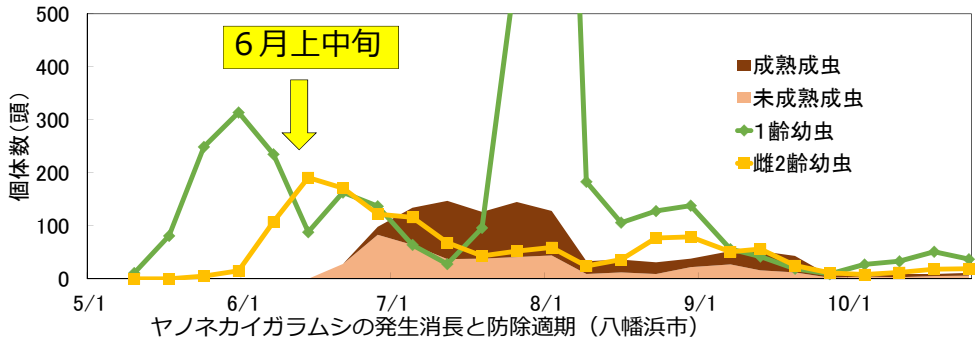
ツノロウムシ成虫
虫体が非常に厚いワックスに覆われているため、薬液が虫体に到達にくい。

フジコナカイガラムシ幼虫
（左：脱皮直後でロウ物質に覆われていない状態）
コナカイガラムシもロウ物質に覆われており、薬液は到達しにくい。

カイガラムシ類は、**介殻やロウ物質に覆われており、**薬液が虫体に到達しにくく、**薬剤の防除効果が上がりにくい。**
また、**卵に対しては**薬剤の**防除効果はほぼ得られない。**

防除のタイミングが重要！

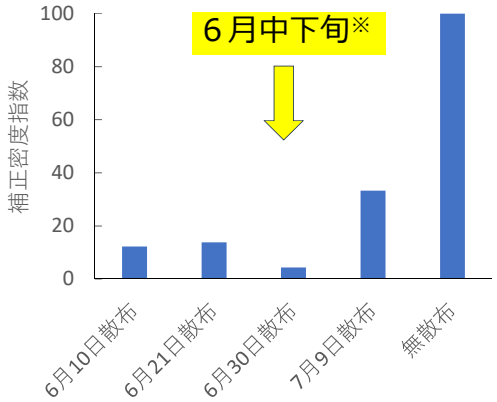
ヤノネカイガイガラムシの防除適期



ヤノネカイガラムシの発生消長と防除適期（八幡浜市）

初発日から３５日頃（多くの産卵が終息し、かつ最初に発生した個体が成虫に至っていない時期）**が防除適期**（アプロード剤・モベントフロアブルは初発日から25日頃）

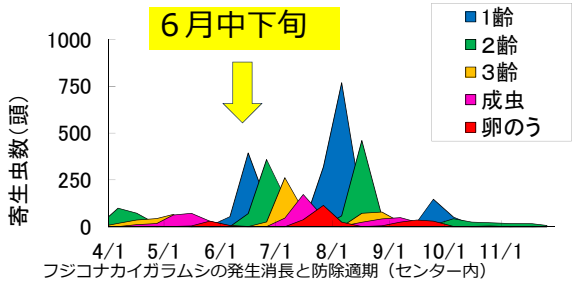
イセリヤカイガラムシの防除適期



イセリヤカイガラムシに対するモスピラン水溶剤2,000倍の散布時期別防除効果（センター内）
※センター内での試験のため、発生の早い海岸部等では6月中旬ごろが適期と考えられる。

幼虫の発生が終息した時期が防除適期

フジコナカイガラムシの防除適期



フジコナカイガラムシの発生消長と防除適期（センター内）

若齢幼虫発生時期が防除適期

ツノロウムシ・ルビーロウムシの防除適期

７月上旬

ロウムシ類は年１回の発生のため、**１齢幼虫期**が防除適期

幼虫発生時期かつ産卵が少ない時期が防除適期となるため、園地に発生している種に応じて防除時期を決定する。なお、多発した場合、１回の散布では十分な効果が上がらない場合があるので、複数回の散布が必要となる。